

くらしの声が、市政を動かす 子ども・若者・高齢者に希望ある苦小牧へ



みなさんの声を
聞かせてください！

日本共産党市議団は、みなさんの願いをまっすぐ届けます！

1

子どもを守る体制が前進

室蘭児童相談所苦小牧分室に 「一時保護機能」設置へ

虐待や家庭の事情などで、すぐに子どもの安全を守られなければならない時、これまで苦小牧地域では対応の遅れや距離の問題が大きな課題でした。日本共産党苦小牧市議団は、子どもの命と安全を守るため、室蘭児童相談所苦小牧分室の体制強化と、一時保護所の必要性をくり返し取り上げてきました。

森本議員は、子どもが必要な時にすぐ保護され、支援につながる体制づくりを強く求めてきました。その声が実り、苦小牧分室に一時保護機能が設置されることになりました。



2

子ども医療費助成18歳まで拡大

「お金の心配なく病院へ」 子育て世代の願いが前進

苦小牧市の子ども医療費助成が2024年8月から、未就学児から18歳まで拡大されました。

子どもが熱を出した時、ケガをした時、病院に連れて行くかどうかを悩む。そんなことがあってはなりません。日本共産党市議団は、子どもの医療費助成の拡大を長年求めてきました。子育て世代からも、「高校生まで広げてほしい」「病院代が心配」という声が寄せられていました。

森本議員も議会で、「物価高のもと子育て世帯の負担は限界であり、子ども医療費助成の18歳までの拡大は待ったなし」と求めてきました。今回の拡大は、市民のみなさんの願いと運動、市議団の議会での論戦が結びついた大きな前進です。



スマホで読み取って、ぜひご覧ください！



しんぶん赤旗
電子版



苦小牧市議団
ホームページ



森本けんた
X
(旧Twitter)





3

エゾシカ事故 道内ワースト1の実態



命と安全を守る対策を求める

苫小牧市内では、エゾシカとの衝突事故が大きな問題になっています。道内の中でも事故件数が多く、市民からは「夜の運転がこわい」「家庭菜園が荒らされる」「いつ事故になるか不安」といった声が寄せられています。

森本議員は、こうした市民の実態をくり返し議会に届け、事故を防ぐための対策を求めてきました。エゾシカ事故は、命にかかわる身近で切実な安全の問題です。森本議員は、啓発看板やハザードマップ、ふるさと農園の金網設置、家庭菜園対策の貸し出しネットなどの改善につなげてきました。まだまだ対策は必要です。安心して暮らせるまちづくりをすすめます。

4

若い人たちとフードバンク

「自己責任」ではなく、
支え合える社会へ



民青同盟のみなさんが中心となり、新日本婦人の会や生活と健康を守る会のみなさんと協力してフードバンクに取り組んでいます。森本議員も生活相談を受けて、生活の悩みや困りごとに耳を傾けています。

食料を必要とする若い人がいる。学生や若者が、食費を削りながら生活している。働いても生活が楽にならない。これは一人ひとりの努力不足ではありません。いまの政治と社会のあり方が問われています。フードバンクは、目の前で困っている人を支える大切な取り組みです。

同時に、「なぜ食べることに困る社会になっているのか」を考え、政治を変える力にもなります。日本共産党は、くらしを壊す政治ではなく、学費の負担軽減、賃上げ、社会保障の拡充、平和で安心できる社会をめざしています。若い人たちが「自分の声をあげていいんだ」と思える社会へ。困った時に助け合い、政治を変える希望を広げていきます。



5

高齢者のみなさんへ

年金だけでは暮らしが大変
——その声を政治に届けます



「買い物に行くたびに値段が上がっている」「年金は増えないのに、医療費や介護保険料の負担が重い」「バスが不便になり、病院や買い物に行くのも大変」高齢者のみなさんから、こうした声が寄せられています。長年、社会を支えてきたみなさんが安心して暮らせない政治でいいのでしょうか。

日本共産党市議団は、医療、介護、交通、除雪、防災など、毎日のくらしに関わる問題を議会で取り上げてきました。森本議員も、地域を歩きながら、高齢者のみなさんの声を聞き、市政へ届けています。政治は、弱い立場の人を置き去りにするものではありません。高齢者も、子どもも、若者も、誰もが安心して暮らせる苫小牧へ。これからも、みなさんの声を力に全力を尽くします。

小さな声を、政治を動かす力に。森本議員は、これからも地域を歩き、聞き、届けます。